

【生薬名】紫根 LITHOSPERMI RADIX

【起源植物】ムラサキLithospermom erythrorizon



【科名】ムラサキ科Boraginaceae

【別名】紫草、一名紫丹、一名紫芙と神農本草經にあり

【薬用部分】根

【主成分】アセチルシコニン

【薬性】気味は辛鹹寒、帰経は心肝に属す

【効能】●涼血解毒・透疹

●解熱・解毒・活血薬として麻疹の予防、黄疸、あざ、腫瘍、血尿、下血などに応用、肉芽の形成促進させる

●上皮腫瘍や白血病、乳癌、肝臓癌の臨床応用が研究されている  
紫根牡蛎湯は乳腺炎や乳癌、肺癌に対して応用されている

●1日5～10g、水500mlにて煎服

●薬性が寒なので脾胃が虚弱で下痢傾向のある者には用いない。

●火傷・痔・皮膚の荒れ・腫れ物に紫雲膏を塗る

●アセチルシコニン、シコニンはグラム陽性菌、真菌に対して抗菌作用がある

●シコニン、シコニン誘導体はマウスサルコーマ180及びエールリッヒ腹水癌に対する抗ガン作用や水性エキス、リスパルマンA,B,Cには血糖降下作用の報告あり

【出典】●治心腹邪氣. 五疸. 補中益氣. 利九竅. 通水道. (神農本草經中品)

●紫草 苦寒、能く九竅を通し、水を刺し膨を消し、痘疹最も要す。(薬性歌)

【備考】●紫根には2種類あって、日局の紫根は硬紫根LITHOSPERMI RADIXをさし、軟紫根MACROTOMIAE RADIXには別の植物を当てている

【処方例】●紫根牡蛎湯

●紫雲膏：ゴマ油1000g、当帰100g、紫根100g、蜜蠟380g(増減)、豚脂(ラード)25g